平成28年度
水管理のチェックポイント

深水潅漑

溝切りと走り水

北海道／道総研農業研究本部／ホクレン／北集／北海道米麦改良協会

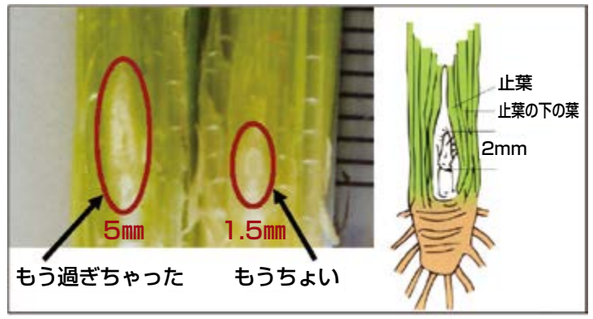
深水管理とケイ酸追肥のチェックポイント

●6～7月は収量・品質を左右する重要な時期です！
●稔実歩合向上のため、前歴期間と冷害危険期の深水管理　および　ケイ酸追肥を徹底しましょう！

深水管理のチェックポイント

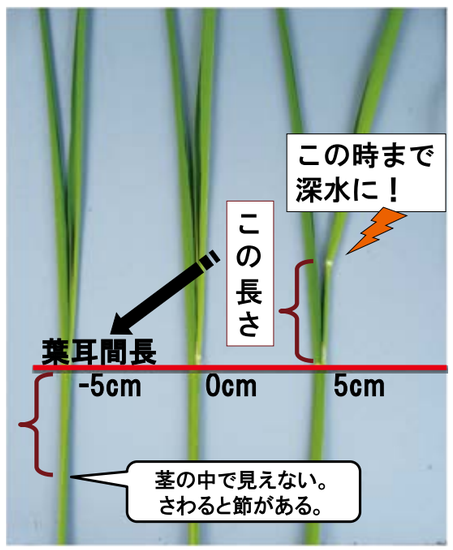
◆幼穂形成期の確認

主稈の**幼穂長が平均2㎜**になった日が幼穂形成期



◆冷害危険期の確認

主稈の葉耳間長－5㎝～＋5㎝

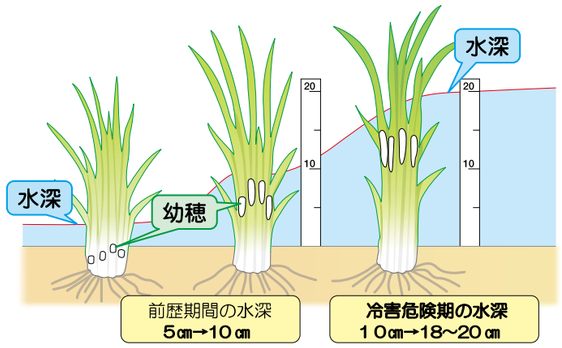


◆前歴期間の時期と水深

- **幼穂形成期のあとの10日間が目安**
- 徐々に水を深くして**10㎝の水深**に

◆冷害危険期の時期と水深

- **前歴期間のあとの7日間が目安**
- 冷害危険期の確認は葉耳間長の測定が簡便で正確です。
- 主稈の葉耳間長 が －5㎝から約80%の茎の葉耳間長が＋5㎝まで
- 幼穂の高さに合わせ徐々に水を深くして**最大18～20㎝の水深**に

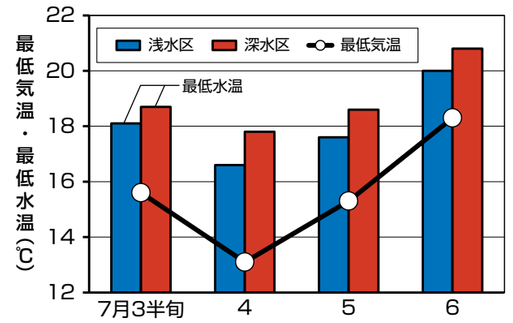


深　水　の　効　果

◆最低気温と最低水温の関係（7月第3～6半旬、H21中央農試）

深水区は水温低下が小さく、不稔が半減

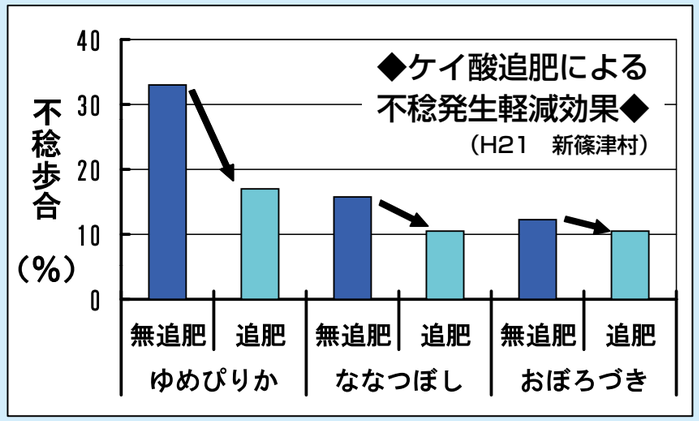
区　別	水　深	不　稔	タンパク
浅水区	5cm	39.3%	7.1%
深水区	前歴期間：10 危 険 期：20	16.5	6.4



ケイ酸追肥の効果

◆ケイ酸追肥の時期

幼穂形成期から1週間後までの間にケイ酸資材　20kg/10aを投入



登熟期仕上げの水管理チェックポイント
～品質を決める重要な時期です～

“仕上げの水管理”三箇条

一　出穂が始まったら浅水管理
（または間断かんがい／走り水）

二　地耐力確保の地固めが原則
（土壌表面にわずかに足跡が付く固さ）

三　落水は穂かがみ期以降
（出穂後25日目以降）

水田土壌の乾き過ぎによる干害

表　登熟期後半の水田土壌水分と土壌表面状態
（平成13年、中央農試・上川農試）

落水後登熟期間の土壌水分	水田土壌表面等の状態	収　量への影響	産米品質への影響
pF2.5以上	作土に深い大亀裂が生成、水稲根の切断が観察	×	×
pF2.4程度	作土に幅1㎝くらいの亀裂多数、足跡つかない	▲	×
pF2.1～2.3	表面に小亀裂生成、わずかに足跡がつく	◎	◎
pF2.1以下	表面のみ乾燥、亀裂微、明瞭に足跡が残る	－	－

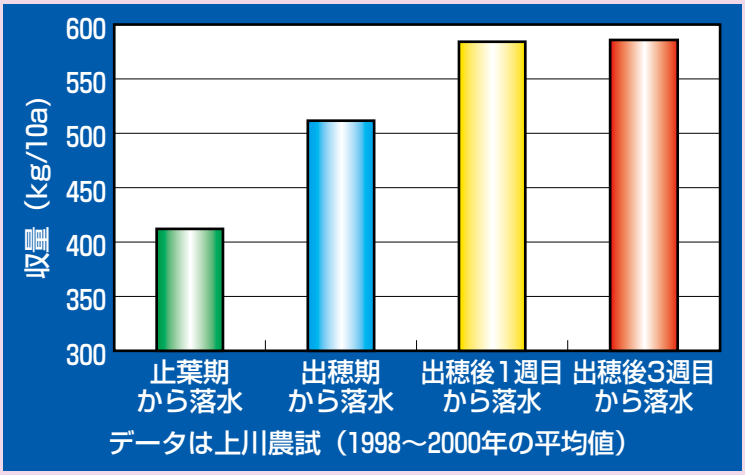
（注）◎：好適、　▲：境界領域、　×：不適、　－：収穫機械走行に悪影響

大　亀　裂

水田土壌の乾き過ぎ、土壌表面の大亀裂防止

◆落水後の水田土壌の乾き過ぎや、土壌表面の大亀裂は収量の低下や腹白粒・乳白粒増加の原因になります。

◆適宜、走り水をして土壌水分を保持しましょう。



落水時期と収量の関係

腹白粒・乳白粒

溝切りと走り水

米麦改良協会ホームページ▶ http://www.beibaku.net/